

行歯会だより 第170号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会) 令和4年4月号



1 佐賀県の歯科保健の現状

フッ化ナトリウムが劇物に指定されたことの影響を中心に

佐賀県健康福祉部健康福祉政策課

技術監 西村 賢二

2 令和3年度 行歯会都道府県世話役アンケート結果報告

『ZOOMによる交流の企画を考える』

岡山県新型コロナウイルス感染症対策室 沖野 雄一郎

さいたま市教育委員会 小池田 幸子

3 都道府県世話役のつぶやき

大阪府 健康医療部保健医療室保健医療企画課 課長補佐 畑山 英明

沖縄県 保健医療部健康長寿課 主幹 玻名城 恭子

1 佐賀県の歯科保健の現状

フッ化ナトリウムが劇物に指定されたことの影響を中心に

佐賀県健康福祉部健康福祉政策課

技術監 西村 賢二

佐賀県健康福祉政策課の健康づくり・歯科保健を担当しています、
技術監の西村賢二です。

自己紹介：平成 2年3月：九州大学歯学部卒業

平成11年4月：佐賀市諸富町 西村歯科医院 院長就任

平成29年4月：佐賀県入庁、佐賀県健康福祉部健康増進課副課長（歯科医師）として配属。健康づくり・歯科保健担当、現在に至る。



歯科臨床を20年以上経験して行政に飛び込んだ、ちょっと変わった経緯で今ここにいます。臨床のこと、歯科医師会のことはよく理解できますが、行政のことはやっと慣れてきたような状態です。

佐賀県の歯科保健に関しては、前任の岩瀬先生がフッ化物洗口を定着させていただいたおかげで12歳児のむし歯の状況はかなりいい状態です。同じ子どもの3歳児の状態を重ねると、フッ化物洗口の効果がよくわかると思います。3歳児のむし歯は全国平均より悪く県の課題となっていますが、この子どもたちが中学生になったときには全国でもむし歯の少ない状態になっています。(図1)

この結果として、歯科医療費がこの年代では全国平均より3000円ほど安くなっています。費用対効果をとっても効果的な事業になっています。(図2)

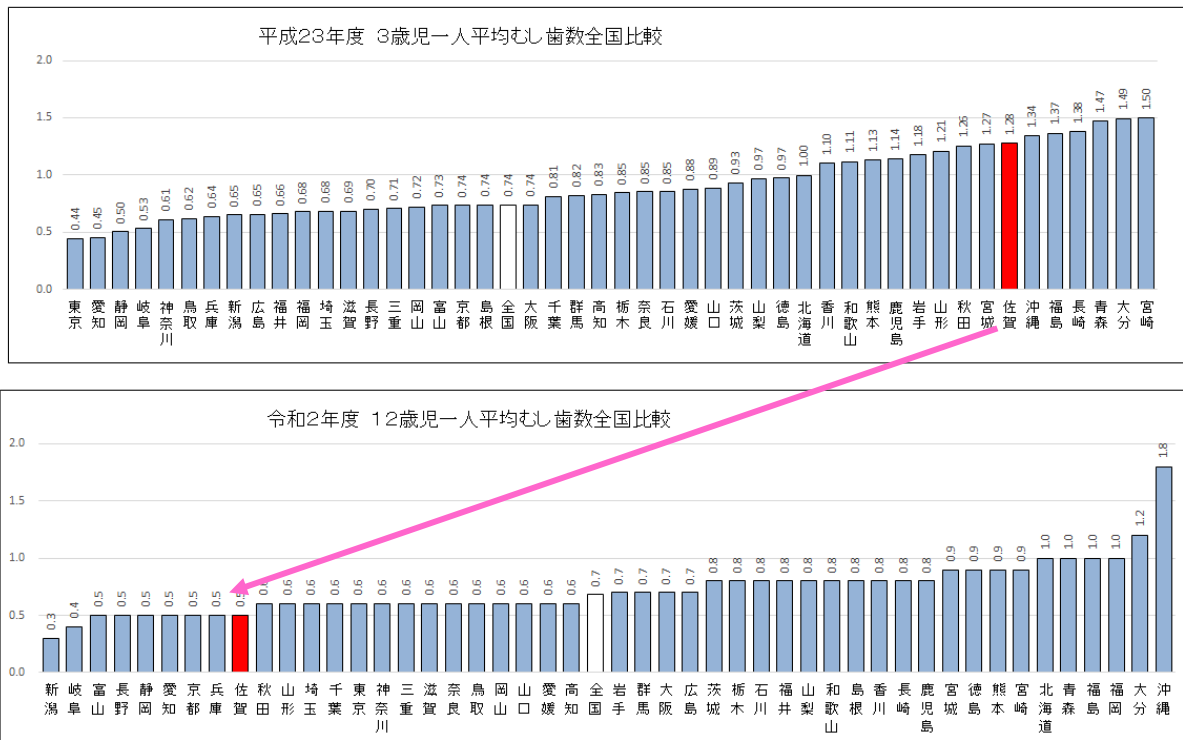


図1 佐賀県 3歳児・12歳児の一人平均むし歯数

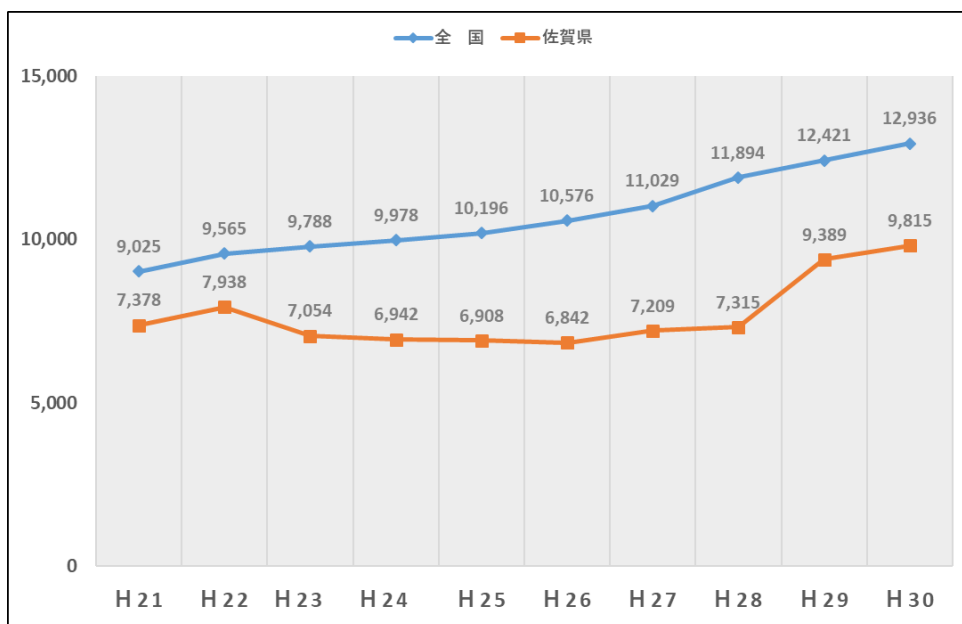


図2 佐賀県・全国 10～14歳児の歯科医療費

今後中学校におけるフッ化物洗口を定着させ、生涯にわたってむし歯の少ない県を目指せるころまで来ています。そんなときに、令和2年6月の国の通知を受けた県薬務課からの「毒物及び劇物指定令の一部改正について」という通知がきました。内容はフッ化物洗口に使用しているフッ化ナトリウムが劇物に指定されるため、劇物としての取り扱いをする必要があるとのことでした。劇物になるといろいろな制約があり、特に薬剤師によって分包された試薬を学校に納品していたことなどが困難な状況になりました。劇物といういい方も学校現場を混乱させるということもあり、試薬をミラノールやオラブリスなど医薬品に変更を進めることにし、現場の混乱を避けるため、県内20市町の教育委員会に説明に回ることになりました。その説明会の中で、学校の職員の働き方改革の中で、業務負担が増えることが大きな問題となっていることが分かりました。しかし、医薬品に変えることでむしろ分包や希釈についても負担が減ることを丁寧に説明していったことで、県と市町、教職員との信頼関係が築けていったように思います。その後の新型コロナウイルス感染症によりフッ化物洗口が問題視された時も、学会の情報等により中断後もスムーズに再開されたことにつながっています。今年度は洗口薬を医薬品に変更したこともありフッ化物洗口マニュアルを改定しました。この際にも市町の要望を取り入れながら丁寧に進めることができました。(図3) 今後も丁寧な説明と情報の共有をしながら子どもたちからのむし歯予防を進めていきたいと思っています。

一方、歯周病に関してはまだ何も対策ができていないのが現状です。効果的な予防法がブラッシングということで、生活習慣を変えるような方法が見いだせていません。むし歯に対するフッ化物のようなお薬があると対策も考えやすいのですが、歯周病に関しては予防的な薬が私の知る限りない状況で、ブラッシングのみに頼って効果を出していくのが難しいところです。ところが、最近歯周病と糖尿病の関連から、糖尿病対策を行っていく中で歯周病の治療の啓発ができるようになってきました。県の事業の中でも、医科歯科連携事業ができるようになってきています。お口の衛生状況や健康が糖尿病の治療効果にも影響することを、啓発していくことで、いままで、届かなかった人にも歯科保健の情報が届くようになっていきます。

歯周病は歯科だけではなく、健康づくり全体で取り組んでいけるところに突破口がありそうです。今後も医科歯科連携や健康づくりにかかわる人たちとの連携を進めていきたいと思っています。



図3 佐賀県フッ化物洗口マニュアル

2 令和3年度 行歯会都道府県世話役アンケート結果報告

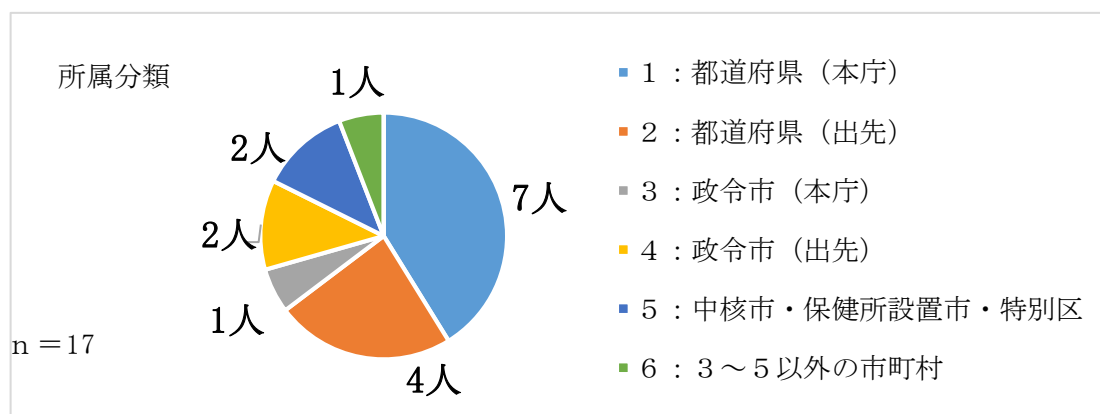
『ZOOMによる交流の企画を考える』

岡山県新型コロナウイルス感染症対策室 沖野 雄一郎

さいたま市教育委員会 小池田 幸子

令和3年度の世話役アンケートは、行歯会の今期活動の一つであるZOOM企画を検討する中で、各地区のブロック理事が、地域単位でZOOMによる交流の企画を考える素材集めとして実施しました。対象者49名中17名から回答をいただきましたので報告します。（回答率34.7%）

回答があった17名（自治体）のうち、都道府県（本庁）とした回答が最も多く7名でした。ついで都道府県（出先）4名、政令市（本庁）1名、政令市（出先）2名、中核市・保健所設置市・特別区2名、これら以外の市町村1名でした。



アンケート調査の具体的な質問項目は、以下のとおりです。

Q1：ZOOMを活用した交流会について

Q1-1 貴殿所属の地域では、今年度、ZOOMなどオンラインを活用して業務で会議・交流会を開催したことがありますか。

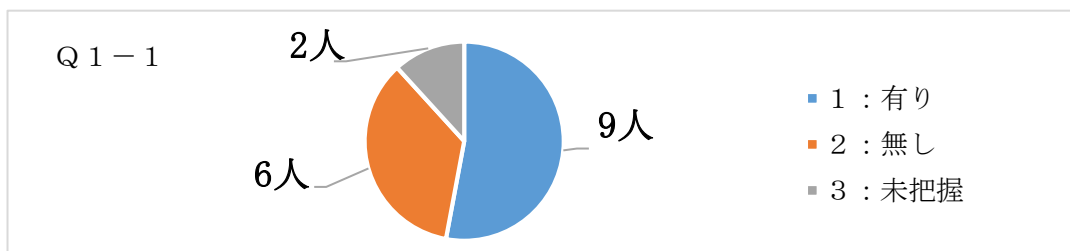
Q1-2 ある場合は、いつ、どのような構成メンバーで、何人くらいでの規模でしたか。また、どのような内容・議題について話し合いましたか。

Q2：ZOOMを活用したブロック単位での交流会について

Q2-1 貴殿所属の地域では、ZOOMを活用したブロック単位での交流会を試してみたいと思いますか。（近隣の市町村や都道府県などブロック単位での交流会の開催の要望がありますか。）

Q2-2 ある場合は、どのような内容・議題で話し合いたいですか。また、開催時期や開催規模などについてはどうですか。

Q1-1 オンラインを活用した会議や交流会等の実施



Q1-2 オンラインを活用して実施した会議・交流会等の内容

①研修会

- ・災害発生時の自治体における歯科的対応について
- ・フッ化物応用に関する講演、市町からのフッ化物洗口モデル事業実施報告
- ・県の歯科疾患罹患状況の報告
- ・県庁歯科医師から「県の動向」についての講演
- ・市町村歯科衛生士の情報交換
- ・県内の歯科口腔保健に関する最近の動向（資料提供のみ）
- ・新任期歯科衛生士研修会
- ・要介護者入所施設職員向け研修会
- ・合同歯科保健研修会（歯科衛生士の交流会を含む）
- ・歯科医師による最近の歯科治療についての講演と意見交換

②会議

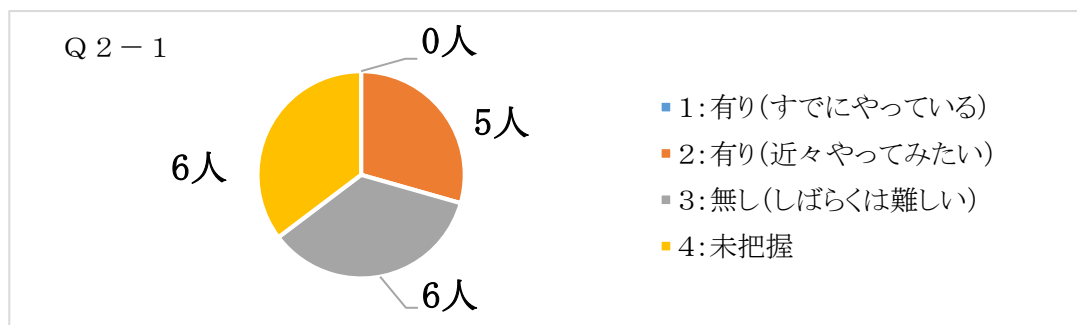
- ・市町村歯科保健担当者との打ち合わせ
- ・歯科衛生士の会議（緊急事態宣言及び蔓延防止措置期間のみオンライン）
- ・県歯科業務打ち合わせ（必要に応じて随時）
- ・保健所歯科保健担当者
- ・県口腔の健康づくり推進検討会（会場とZOOMのハイブリット）

③対象者及び構成メンバー

- ・行政歯科技術職員（歯科医師・歯科衛生士）
- ・歯科担当職員（保健師・栄養士・行政職員）
- ・歯科医師会・歯科衛生士会
- ・栄養士会
- ・保育施設関係者

多くの研修会や会議では行政歯科技術職員を対象としていました。また、検討会では、歯科専門職以外の職種も参加していました。

Q2-1 ZOOM等を活用したブロック単位の交流会の開催の要望



Q2-2 具体的な内容

- ・他県の方との意見交換会の場を希望する。
- ・開催時期は予算作成前の時期が好ましい。
- ・時間帯については日中希望。
- ・職場でZOOM使用不可のため土日の昼間に自宅PCにて参加したい。
- ・県内の健康福祉事務所、市町村とはオンラインによる会議・研修会は既に開催している。
- ・時期は夏から秋頃にかけて、業務時間内での開催を希望する。
- ・歯科専門職の人材育成(行政新任期を含む)、災害の備えに対する中長期的な計画、行政歯科専門職の配置状況、大学や企業と連携した取組等について意見交換したい。
- ・かつて「●歯連」という行政歯科関係者の集まりがあり、メーリングリストによる情報共有や有志研修会や夏ゼミの企画運営を行っていた。
- ・地区のメンバーで集まる機会はコロナのこともあり、ここ数年できていない状態です。そこで、近況報告会を土日の夜(19:00-21:00)にZOOMで実施できたらと思う。
- ・まずは地区府県で、他府県からの希望もあるならば開催したい。
- ・コロナの感染拡大が続いており、しばらくは難しい。
- ・県担当者レベルでは、ブロックの会議は毎年開催されており、必要時には交流できるので、個人的には改めての交流会開催の必要性は感じない。

まとめ

ZOOM等のオンラインを活用した会議や交流会等が無いと回答した方が35%いました。コロナ禍で急速に活用が進んだとはいえ、自治体によって環境に差があり、交流会に対する意見も様々だったので、今後ブロック理事の方々と検討する必要があると思われます。近隣の自治体同士は感染状況が落ち着けば交流が可能ですが、全国規模の行歯会ならではの企画ができると思います。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症対応でお忙しい中、アンケートに御協力いただきました世話役の皆様、また、御意見をお寄せいただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。この結果報告を踏まえ、今後の行歯会活動における企画の参考にしてまいりたいと考えております。

3 都道府県世話役のつぶやき

●●●●● 大阪府 ●●●●●

大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課 課長補佐 畑山 英明



行歯会の皆さまにはいつもお世話になりありがとうございます。大阪府の世話役の畑山です。

はじめに、簡単に自己紹介させていただければと思います。大阪府庁に入って10年を超えました。平成22年度に入庁し、1年目は岸和田保健所に配属され、主に救急搬送体制の構築を担当しました。2年目からは、本庁に配属され、歯科保健を5年間担当しました。その後、平成28年度からは、医療計画と地域医療構想の担当部署に異動し、今年で7年目になります。

その間、新型コロナウイルス感染症が国内で流行し、所属部署は変わらなかったのですが、令和2年からは、新型コロナウイルス感染症の病床確保についても追加で担当することとなりました。

新型コロナウイルス感染症の病床確保は、都道府県が増床したいと考えても、医療機関の協力なしには進みません。国内の流行当初の第1波の時は、新型コロナウイルス患者受入医療機関は感染症指定医療機関の6病院、受入病床は78床でしたが、この2年間で約200病院、約4000床まで増床しました。大阪府内の一般病院は500弱ですので、約4割の病院に病床を確保していただいたことになります。これだけ増えることになるとは、当初は想像できませんでした。

しかしながら、感染の波が来るごとに、感染者数は大幅に増えました。第6波のオミクロン株の流行においては、1日当たりの府内の新規陽性者数は2万人を超える事態になりました。重症化率・致死率は低下しましたが、感染者数が大幅に増えたので、入院者数が減少することはなく、病床は4000床確保しましたが、ひっ迫する事態となりました。そして、大阪府では、高齢者施設のクラスターが多発したため、死亡者が多く発生する事態となってしまいました。現在、大阪府では、第6波における課題を踏まえ、施設での感染対策強化や施設への往診体制強化等、第七波に備えた対策を進めているところです。

冒頭お伝えしましたとおり、歯科保健の部署を離れて7年目となってしまいました。医療計画や地域医療構想の通常業務に加え、新型コロナ担当となってしまったことで、世話役らしいことは全く出来ていません…。コロナ禍において、WEB会議が普及し、自分も慣れてきましたので、少し余裕が出てきたら、いつか大阪府内の会員でWEBの意見交換会等が出来ればと密かに考えています。

最後となりますが、行歯会だよりで皆様が提供していただける情報を通じて、歯科保健にかかるつながりを持っていただければと思います。今後とも何卒よろしく願いいたします。また、新型コロナウイルスが弱毒化し、通常の生活に戻る日が早く来ることを願っています。

●●●●● 沖縄県 ●●●●●

沖縄県保健医療部健康長寿課 主幹 坂名城 恭子

行歯会の皆様、気持ちも新たに新年度を迎えられていることと存じます。沖縄県世話役の坂名城です。3回目の執筆が回ってきました。



1. 沖縄県の歯科保健事業等のご紹介

沖縄県では遅ればせながら平成31年3月に「沖縄県の歯科口腔保健の推進に関する条例」を制定いたしました。令和2年3月には単独計画「沖縄県歯科口腔保健推進計画（通称：歯（は～）がんじゅうプラン）」を策定、そして現在は「（仮）沖縄県口腔保健支援センター」の設置を目指しているところです。少しずつですが、歯科口腔保健推進のための環境整備をすすめています。

独自の事業を少しだけ紹介させていただきます。

上記条例により11月を「歯（は～）がんじゅう月間」と定め、（一社）沖縄県歯科医師会と連携し、毎年、啓発活動を行っています。令和3年度はご当地タレントの護得久榮昇先生（以前、マツコ会議にも出ていました。）出演の啓発動画を4本作成しました。独特の護得久先生ワールドです。さらっと見られますのでお時間がある時にでもご視聴ください。



また、乳歯むし歯予防対策強化の一環として平成28年度から「親子で歯っぴ～プロジェクト」を実施しました。県内乳幼児16,000人余りの乳幼児健診データを集計分析した結果「毎日の仕上げみがきを定着させることで効果的にむし歯状況を改善できる」との見解が示され、あわせてフッ化物応用の普及定着が図れるよう取り組みました。柱は2つ：乳幼児健診の歯科保健指導内容の標準化と8市町村でのモデル事業（アンケート調査、ケアグッズ配布及び家庭での使用促進等）です。結果、わずか4年間で毎日の仕上げみがき実施の割合やフッ化物応用実践の割合等が向上し、県の3歳児むし歯有病者率は10.5ポイント改善、モデル市町村においては

11.3 ポイント改善につなげることができました。（個人的にはこの事業を通して、歯科保健行政に携わる醍醐味を体感することができたような気がしています。）詳細は下記に掲載しておりますのでこちらもお時間がある時にご覧いただければと思います。全国的には乳幼児期・学齢期のむし歯がかなり減少していますが、本県においてはまだまだ大きな健康課題の一つです。現在は教育庁と連携し、就学時健診等を活用した永久歯むし歯予防対策「親子で歯っぴ〜プロジェクト(5歳児版)」にも取り組んでいるところです。また5年後に成果をご報告できれば・・・と思っています。 http://www.osh.or.jp/event/ha_ppy2/index.html

2. 玻名城のつぶやき

「以前は6保健所全てに歯科医師、歯科衛生士が配置されていましたが、退職された先輩方の後、採用がないまま時が流れ、大台目の私がいまだに最年少という行政歯科専門職の高齢化問題に直面しています。」と前回のつぶやきに書きました。

その後、時は流れ・・・令和3年11月に26年ぶりに（なんと四半世紀以上(^_^;)）歯科医師の沖縄県職員採用試験が実施されました。令和4年4月1日付けで歯科医師採用です！しかも熱意にあふれた若い歯科医師が2人も！！私にもようやく後輩ができました。

また、令和3年7月には歯科医師の先輩、比嘉千賀子先生が保健所長に就任されました！！女性歯科医師としては全国で2人目ということです。嬉しいことが続いています。（*_^*）

令和3年度は沖縄県では新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染拡大が起こり、その対応業務にも追われた日々でした。コロナ関連業務は今後もしばらく続きそうで、時々心折れそうになることもあります。行歯会だよりや行歯会メールを目にする度、全国各地の仲間の皆様の頑張りに刺激を受け、元気をもらうことができます。歯科専門職として県行政で働ける今に感謝し、沖縄県民のためになること、できることを頑張ります。今後どうぞよろしくお願いいたします。（&世話役はそのうち後輩に引き継ぎたいと思っています♪）

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛にご連絡ください。

♪ 編集後記 ♪

異動があった方もなかった方も、新メンバーでお仕事をスタートしてあっという間に1か月。やっと環境に慣れてきた頃ではあるものの、疲れを感じている方も多いのではないのでしょうか。

2年前の今頃は、その冬に始まるコロナ禍など想像すらせず、ゴールデンウィーク（しかも10連休でした！）を前に、とてもウキウキしていたのを懐かしく思い出します。今年の連休は出勤日もありますが、春の日差しを楽しむくらいの気持ちでゆるゆると過ごそうと思います。

今年度1年間、行歯会だよりの編集を担当いたしますので、よろしくお願いいたします。

皆様、年度末から年度初め、ほんとうにおつかれさまでした。（N）

通勤路で毎年この時期に咲く桜や、名も知らないピンクの花にエールをもらい、新鮮な気持ちになっています。切っても、切っても伸びてくるカポックの逞しさにも励まされます。（H）